

Title	編集後記 (泌尿器科紀要 第51巻第5号)
Author(s)	
Citation	泌尿器科紀要 (2005), 51(5): 368-368
Issue Date	2005-05
URL	http://hdl.handle.net/2433/113600
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

3. 論文の採否：論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される。ただし、シンポジウムなどの記録や治験論文については編集部で採否を決定する。
4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 採択論文：論文が採択された場合、原稿を3.5インチフロッピーディスク・MO ディスク・CD-R・CD-RW のいずれかに保存し、編集部へ送付する。ディスクには論文受付番号・筆頭著者名・機種名・ソフトウェアとそのバージョンを明記する。Windows の場合は MS-Word・一太郎、また Macintosh の場合は EG-Word・MS-Word とし、特に Macintosh においては MS-DOS テキストファイルに保存して提出すること。
6. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
7. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,775円(税込)、英文は6,825円(税込)、超過頁は1頁につき7,350円(税込)、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は31,500円(税込)、6頁以上は1頁毎に10,500円(税込)を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
8. 別刷：30部までは無料とし、それを超える部数については実費負担とする。著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編集後記

楽しいゴールデンウィークを前に、悲惨な列車事故が起きてしまった。現時点で正確な事故原因は明らかにされていないが、鉄道会社の利益重視、安全軽視の経営方針が運転手に危険運転を強いたという論調で報道されている。言うまでもなく安全を最優先させてこなかった会社トップの責任は重大であるが、速さや利便性を飽くことなく追い求めている我々日本人全員にも責任の一端があるように思えてならない。

医療費抑制政策のなか、高度化した医療を行わなければならない医療人にとっても今回の事故は他人事ではない。安全を最優先させながら効率を高めるには、クリティカルパスなどを含めた安全管理システムを洗練するしかない。しかし、効率と安全との間にある緩衝領域は明らかに狭まっているし、行き過ぎた効率重視は医療事故に直結する。そして、それが破綻した場合に犠牲となるのはいつも国民(患者さん)であるし、責めを負うのは現場の人間である。

「この事故はゆるみきった日本社会が起こした」という犠牲者の家族の言葉が重く心に残る。結局、効率性と安全性のバランスを取りうるのは、最前線で働くプロとしての医療人ひとりひとりであることを忘れないようにしたい。

(小川 修)

泌尿器科紀要 第51巻 第5号 2005年5月25日 印刷 2005年5月31日 発行
 発行 小川 修 顧問 吉田 修 発行所 泌尿器科紀要刊行会
 〒606-8392 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎301号 電話 (075) 752-0100
 FAX (075) 752-0190

<http://www.kiyou.jp/>

印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
